372-574
1200501449193
372
574

名勝及天然紀念物

青海島

山口縣編

始

名勝及
天然紀念物

青海島

山口縣

はしがき

本冊子は名勝及天然紀念物青海島を初めて探勝せられんとする各位の御參考として刊行したものであります

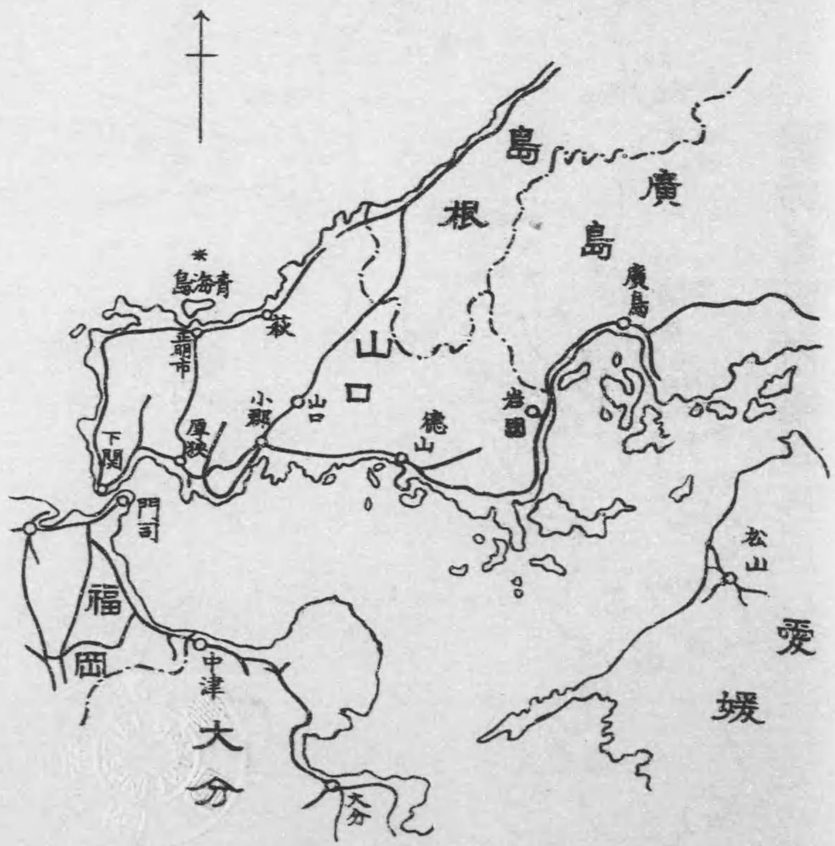
昭和七・五・四・三

372-574

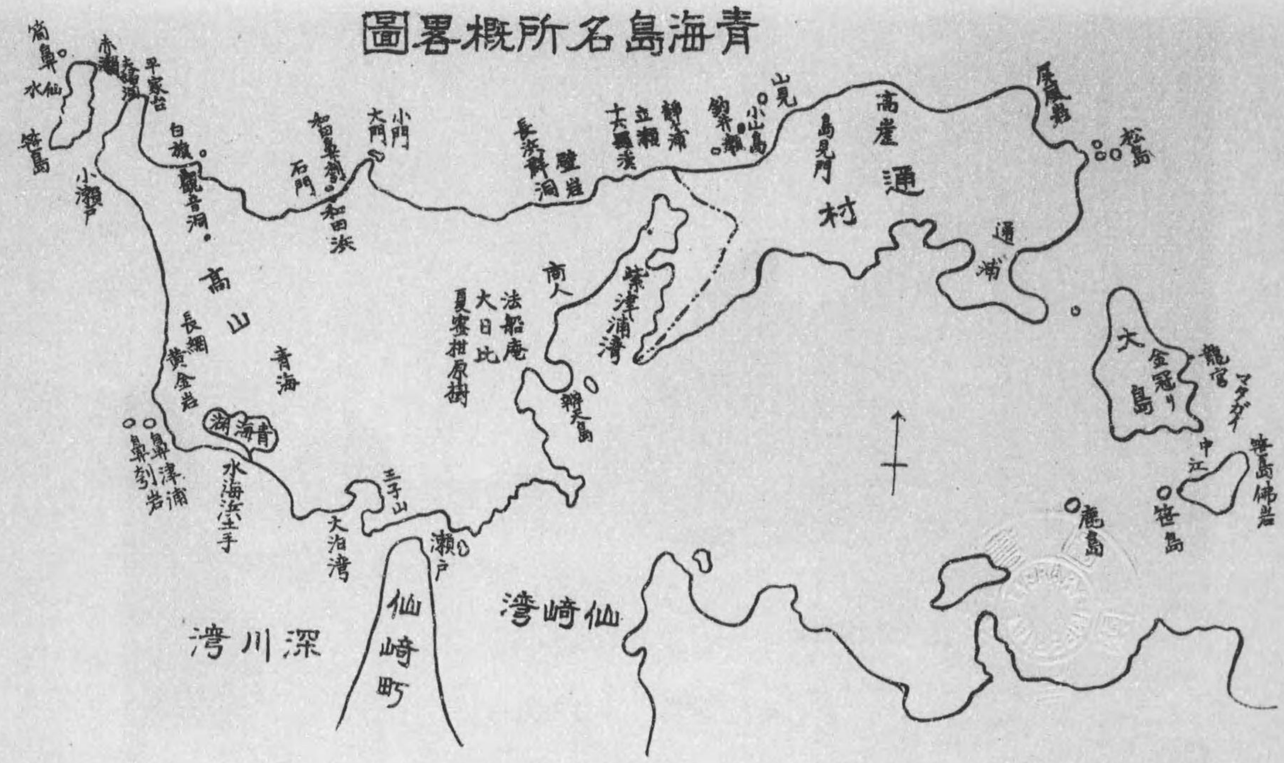
目次

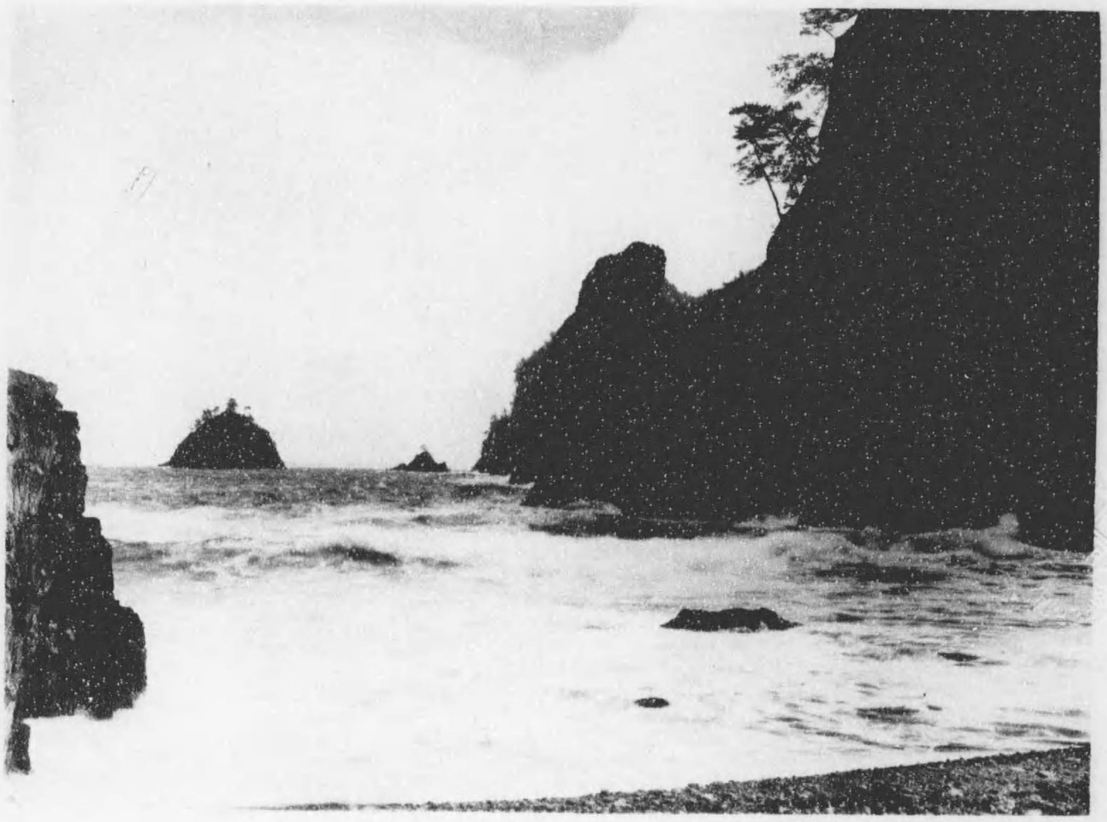
位置及廣袤……一頁
沿革……二
交通……四
觀覽方法……五
名所……七
東面……七
北面……九
西面……一三
南面……一五
概況……一七

青海島位置圖



青海島名所概略圖


高崖
通
村
通浦
大島
金冠り
龍宮
中江
笠島
鹿島
仙崎湾
仙崎町
瀬戸
大泊湾
深川湾
青海湖
水海浜
高山
青海
長棚
黄金岩
白旗
觀音洞
小瀬戸
赤瀬
平家岩
小門
大門
石門
智恵の浜
長浜
鍋洞
壁岩
立瀬
大瀬浜
鱒浦
小山島
鍋瀬
山見
尾崎
船島
商人
法船庵
大日比
夏蜜柑原樹
禁津浦湾
鱒見島
三子山
鼻津浦
鼻刻岩
鼻仙
水
笠島



青　海　島　　靜ヶ浦より高崖及山島を臨む

漢羅六十島海青

天冒海青

近附列行裝變

島海青

帝國圖書館藏

名勝及天然紀念物

青海島の概要

位置及廣袤

青海島は山口縣大津郡の北海岸に近く横はる日本海上の島であつて東方は通村に屬し西方は仙崎町の一部である、本島の本陸に最も近き所は其距離僅に二一六mに過ぎない、地形は東西に長く南北に狹い、島の南岸は出入多く就中、大泊灣、紫津浦灣等は著名である

東西の延長八粁、南北の幅最も廣きところ三粁、最も狹きところ二一六m、周回四〇粁、面積一三五五町歩なれども本島には數個の屬島と多數の岩礁あれば

是等を加へて總面積一四〇〇町歩である

本島の名勝及天然紀念物としての指定區域は島の東面、西面、北面と其の地先の附屬島嶼及岩礁を包含する

沿革

青海島は大體に於て昔は二つの島であつて東にあるを通島、西にあるを青海島と呼んだものであつたが此二島は砂洲にて連續して一島となり今は全體を青海島と呼ぶに至つたものである

通島と呼びたるは對岸の本陸より漁業の爲め漁人が此島に渡り來つた爲め此名があるのである、通島の名の古く物に見えたるは通村向岸寺所藏應永の大般若經奥書に通島海雲山西福寺とあるものである

青海島は其の南海岸に近く青海湖といふ湖水があるから引て島名となつたもので青海は淡海(アフミ)から轉訛したものであらう、其の他、青海島とは青海原にあるから此名ありと云ふ説もあり又た長門の北海は阿武海と呼びたることあれば其の轉訛であると論ずるものもある、青海島の地名の最も古く物に見えたるものは慶長五年の檢地帳である

其の豪宕雄大なる奇勝を初めて繪圖に表はしたものは享保年間に藩命に依りて造つた青海島の一村限地圖である

本島は古來鯨族陸岸に近く廻游し捕鯨業としては甚だ好位置にあるが故に盛に之に着手したものであつたが筋立ちたる組織は延寶元年の鯨組取立に初まるのである

此島は本陸より近く交通便利なれば元和年間馬匹の放牧場として經營したことあるも本島の東、西、北の三面は斷崖絶壁なれば牧馬の墜落して死するもの多かりしより自然廢止せられた、然るに安政年中大庭某なる士に命じて再興せしめたが不成功に終はつた

此島の今舟越しと呼ぶ所は往時は海峽で日本海航行の船舶が碇泊した所であつた、商人（アキウド）と呼ぶ所は今は田地に過ぎないが此所に繁華なる市街があつたのである、然るに其海峽は砂礫にて閉塞し船舶の來泊するもの無く享祿、天文の頃より漸次衰微し住民は大日比や瀬戸崎に移轉した

大正十五年十月二十日史蹟名勝天然紀念物保存法に依り本島の東、西、北岸は名勝及天然紀念物として指定せられ、本島の南岸なる大日比に於ける夏蜜柑原樹も同法に依り昭和二年四月八日史蹟及天然紀念物として指定せらるゝや、其名遠近に知られ遊覽者年次增加するに至つた

交通

青海島は仙崎、黃波戸、深川、澤江、野波瀬、三見、萩等附近の何れの地よりも舟を出し觀覽し得らるゝも就中最も便利なるは仙崎町である

仙崎町には青海島觀覽上總ての機關ありて、あらゆる設備を整ふ

山陽線より來らんとするものは厚狹驛に下車し美禰線に乘換へ正明市驛に下車し同驛より仙崎町まで自動車約十分間

山陰線より來らんとするものは正明市驛に下車し同驛より仙崎町まで自動車約十分間である

觀覽方法

第一方法

青海島の奇勝を觀覽せんとするには可成天候險惡にして狂瀾怒濤が斷崖絕壁や

海礁を嚙んで碎くる雄大なる光景を見るにあらざれば其の眞價を知り難い、故に晩秋、冬、早春の候を撰ぶべく、尙ほ夏期に於ても風波高き日を可とする

斯の如き日に於ては仙崎港より船を出し紫津浦灣に入り舟越しに上陸して漫々たる日本海を臨みつゝ山巓に導く小徑を傳ひて東方に向ひ變裝行列、象ノ鼻、十六羅漢等を近景とし青海島北岸一帶を瞰下しつゝ靜ヶ浦に下り小憩して小山を越へ舟に乘り歸途大日比に立寄り史蹟及天然紀念物として指定せられたる夏蜜柑原樹や有名なる尼寺法船庵を遠望して又々舟に乘り仙崎に歸着する

第二方法

成るべく海上靜穩なる日を撰びモーターボートに依りて島を一周するのである

が海上靜かなる日は狂瀾怒濤の壯觀を缺ぐ點があるのは遺憾である

島を回遊するには其の日の風向や潮流の都合に依り或は午前午後の場合に依り東廻りと西廻りの方針を定むるのであるが何れにしても笹島と大島の東岸は本島隨一の勝景であるから決して見逃してはならぬ

本島を觀覽するには必ず小型の舟を撰ぶと共に水路に精通する舟夫を傭ひ可成

岩壁に沿ひ多數の洞門や小瀨戸等を通り拔けざれば興味の起らざることに留意せねばならぬ

本島を廻遊するには約三時間半若は四時間を要する

名所

本島に於ける名所を東面、西面、北面、南面に分つて其の概略を述ぶれば

●東面

本島の東端も大島及笹島の東岸を含包するものであつて隨一の奇勝は此地域にある

○笹島の佛岩　笹島の東岸には巨岩怪石伏起して勝景である、此所に一大岩柱の聳つものを形の似たるより之を笹島の佛岩と呼ぶのである

○金冠り　大島の東岸に聳つ一大岩壁であつて甚だ偉觀を呈し直立一五〇mを越へ島内第一の勝景である

○龍宮　岩壁の間隙より舟を繰り入るれば岩壁の間を巡り巡りて一洞門となる之を拔け出ずれば外海に出ずることが出來る、之を大島洞門と呼ぶのである、此地域は奇觀中の奇觀であるから決して見逃してはならぬ

○佛岩　海中に一大岩臺があつて其上に恰も佛像の如き岩柱が直立する、其の形の似たるより此名がある、昔時捕鯨業の盛であつたとき見張所を此所に設けたが會々起れる地震の爲に直立せる佛岩の動搖すること甚だしく番人等各々悲鳴を擧げて海中に飛込みたることありしが後日再び斯る危險を避けんが爲め之を折り去らんとすることに一決して佛岩に巨繩を引懸け捕鯨船二十餘艘總人數二百餘人にて力を併せて漕ぎたれども遂に折り取ることが出來なかつた

○烏帽子岩　一大岩壁であつて陸岸より遠く海中に突出する、其頂上に烏帽子の如き形狀を爲せる岩角あるが故に此名がある

○屏風岩　海岸より東北に面する延長二三〇m、高さ一一〇m許の略々半圓狀

を呈する一大岩盤であつて全く垂直に聳立すること恰も屏風を立てたるが如きを以て此名がある

○松島　本島の東北端であつて數十の奇岩怪礁起伏し矮松岩壁に生育するが故に此名ありて屈指の勝地である、多數の奇岩中にて東端に直立する岩柱は偉觀である

●北面

○潮場の鼻　一大岩角の海中に突出し之を続りて大小の奇岩怪礁數百個起伏參差の狀態を呈し甚だ勝景である

○高崖　直立一三〇mの屏風の如き堂々たる大岩壁であつて頂上は通村最高地點となり雄大なる光景である

○島見門　海中に突出したる一大岩壁に長方形の大なる洞門を造りたるものを云ふ、此所は容易に遊覽船を通過し得べき所であつて東方より洞門に入らば前面に山島を望見し得べきが故に此名がある

○山島　二島より成り何れも其形狀甚だ酷似する、其陸岸に近きを小山島、沖

合にあるを山島と云ふ、何れも頂上に十數株の倭松を生ずる、冬期うみ鷲の來つて此附近を中心として飛翔するを見ることがある

○釣井瀨　一つの海礁であつて其の西側に當り潮水の進退に依り造りたる甌穴がある其の直徑四m、深さ五mの井戸狀を爲す所あるが故に之を釣井瀨と呼ぶのである

○白壁　幅一、五m、高さ四m延長三五mの石英斑岩の岩脈が白壁の如き有樣に取殘されたるものである

○象の鼻　海中に突出する數口の洞門を有する巨岩であつて其狀態恰も巨象が海中に立ち長き鼻を垂れ水を吸ふが如き有樣なるより此名がある

○瀨叢　數百の岩柱海中に或は立ち或は伏し甚だ奇觀を極むるものであつて就中立瀨と呼ぶ二本の大石柱は威風堂々たるもので海中に聳立する、此附近一帶を十六羅漢とも呼ぶ、變裝行列と呼ぶものは數本の奇形を爲す岩柱列を造り、先なるものは陸に上ぼり後なるものは尙ほ海中にありて恰も海底より怪物が行列を作つて陸に上ぼり來るが如き狀態である、陸岸には玉の如き砂礫堆積して實に美麗である、此所を靜ヶ浦と呼ぶのである

○舟越し　高さ八m、延長二一六mの砂洲にて外海と內海なる紫津浦灣とを遮斷する所を云ふ、此所は往昔の狹き海峽で北海航行の船舶が自由に往來した

○長濱群洞　東西に長く連亘する長濱の斷崖絕壁は海蝕を受けて大小の洞門九十有餘を造り內部にて相連絡する

○大門小門　本島の最北端なる山見の鼻は一大岩壁にして本島との間に延長二二〇mの狹き水道を造り小舟は容易に通過し得らる、此所に島內屈指の奇觀たる大門及小門と呼ぶ二つの石門がある、大門は高さ一〇〇m、小門は高さ七〇mを超へ甚だ偉觀である

○和田の濱　此所は舟中より臨めば何等價値なきが如きも岸に上ぼらば豪壯なる奇觀を臨み得る屈指の勝地である、西方には遙に大平場臺、觀音瀨、平家臺筍の鼻等を臨むべく、東方には山見鼻の斷崖絕壁を前面には洞門を有する奇岩を見る

○石門　陸岸を距たる十數間の沖合に當り海中より一對の石柱垂直に立てり、

其の高さ何づれも二〇m許である、陸岸に上ぼりて臨むを最も佳景とする

○大平場臺　海中に一大岩礁があつて頂上平坦なるが故に此名を得、陸岸に一洞門あり之を横道洞と云ふのである

○觀音洞　觀音瀬に向つて突出する一大岩壁の洞穴であつて小舟ならば通拔け得らる

○觀音瀬　奇形を呈する石柱の海中より聳ゆること三〇m許のものである、其形狀は遠望すれば恰も蟠まれる巨蛇の首を高く差し伸ばしたるが如きが故に蛇岩とも云ふ、觀音瀬と呼ぶは隣地に觀音洞と呼ぶ所あるが故である

○白旗岩　一名源氏の白旗岩とも云ふ、幅一、三m延長一三mの白色を呈する石英斑岩の岩脈が黑色の砂岩中に表はるゝものにして遠望すれば宛ら白旗の翻れるが如きを以て此名がある

○紋岩　平家臺に南隣する岩壁に多數の紋形を表はすもので岩石學上注意すべき地點である

○平家臺　花崗岩より成る面積二町歩の稍々隋圓形を爲す岩臺の海中に突出す

るものにして陸地と僅に離る、臺上に數個の砂岩の小丘を有する、臺上よりの展望は廣濶にして此所に馬の蹄蹟、馬盥など呼ぶ所がある、此所は壇の浦の戰爭に敗れたる平家の殘黨の遁れて此岩上に漂着し自刄せる所なれば平家臺と呼ぶとの傳說がある

○黃金洞　北面する二口の大岩窟であつて怒號する巨濤は去來して囂々たる響を起す、洞内には小舟を繰入れ得ること六〇mにして岩石の石理甚だ美觀である、洞内多數の岩燕棲息する

○赤瀬　笹島の北岸は石英斑岩の斷崖であつて含有する鐵分が酸化して全面赫色を帶ぶるが故に此名がある

●西面

○筍の鼻　海中に聳立すること一〇〇mの巨大なる岩柱で其形狀の似たるより此名がある

○千人魔府　笹島の岩頭に一本松と呼ぶ孤松が生育する、其麓に岩石壘々として海中に堆積する所がある、是れ數十年前先大津の多數の捕鯨船は風波を洞内

に避けたる際に洞は崩れて多數の漁夫は船と共に海底に沈められたる儘奈何ともすることが出來ない

○仙水　笹島の北崖に長さ四〇mの洞道あり其の南端に圓形の小池を造る、之を仙水と云ふ、波穏かなる時は容易に小舟を繰入るゝことが出來る

○小瀬戸　本島と屬島なる笹島との間にある瀬戸であつて中央に壁岩と云ふ岩柱あり、滿潮の時には大小の舟は自由に交通し得らるゝも干潮時には小舟にあらざれば通過し難い

○高山　頂上は本島最高の地點にして高さ三二〇mである、全山綠氈を以て蔽へるが如き草山にして海岸より約四〇度の急傾斜を爲す

○長綱の絶壁　高さ七〇m許の恰も屏風を立てたるが如き大岩壁であつて其麓の海中には大小の岩礁起伏し鮑及螺螺多きを以て名高い所である

○團子岩　海岸に沿ふて立てる圓錐形の巨岩にして其頂上に徑三m許の球狀の巨岩がある、形の似たるより之を團子岩と呼ぶ、嘗て一冒險家あり岩頂に登り之を突き墜さんと努めたが毫も動かざりしと

●南面

○瀬戸　仙崎市街の北端なる洲崎と青海島の最南端なる王子山との間にある海峽であつて其の距離二一六mに過ぎない、干滿二時に當つては潮流急である、此所は往時潮流の作用で砂礫を以て陸續きとなりしが中古其砂洲は切れて今は瀬戸と一變したものである、王子山に東隣する雜木林中には橘の自生するものがある、是は笠山に於ける橘自生北限地に次では最北に位するものである

○青海湖　本島の西南隅に近き所にある潟湖で周回四粁ばかりである、池中には鯉、鮒、鰻、イナ等を產することが少なくない、此湖はもと海の一部であつたが風波の爲に長き礫堤を造り海と遮斷したものである、礫堤は延長一・三粁、幅二〇m高さ七mで其上に老松九百餘株生育する

○大日比　前に波靜かなる仙崎灣を控へ、北に山を脊ひ氣候溫和、風光明媚である、此所は人家數十戸の一小村落で、此地に有名なる夏蜜柑原樹、西圓寺、法船庵等がある

○夏蜜柑原樹　大日比に現存する夏蜜柑原樹は昭和二年四月八日史蹟名勝天然

記念物保存法に依り史蹟及天然記念物として指定せられたものである

○法船庵　大日比西圓寺抱の堂庵で同寺の西方約三丁の所にある、同庵は東に小丘を負ひ土地高く甚だ幽邃なる所であつて初めは西圓寺住職法岸和尚の隱居所なりしが何時しか尼僧の庵となり今も尚ほ數十名の尼僧ありて日夜念佛誦經に餘念なし

○紫津浦灣と商人　紫津浦灣は青海島の南岸にある灣であつて殆ど島を二分せんとする、灣の幅七〇〇m、延長三粁水深二〇尋であつて鬱蒼たる樹林を以て圍む、灣頭を舟越しと呼ぶ、本灣内には鯨族の廻游することあり、海豚の大群も年々本灣口に廻游することあるが故に網にて灣口を遮斷して捕獲する、其他鯖、鰹、羽魚、等の廻游性魚屬の大群を爲して此灣内に來るを例とする灣の西岸に商人（あきうど）と呼ぶ地名がある、此所は往時千戸に餘る商業殷盛の地であつたが海峽閉塞の結果漸次衰頽して享祿天文の頃に至り住民は主として仙崎方面又は大日比に居を移した爲め今は田地と化し人家一軒も見ることが出來ない

○通浦　此地は古來漁業の盛なる所で半農半漁の者も少なくない、人家は數百

戸ありて略々小市街の觀を呈する、豐臣秀吉征韓の際には此地より多數の水夫を徴發した

○鯨墓　通浦向岸寺抱へ清月庵は舊名觀音堂であつて、此所に珍らしき鯨墓なるものがある、墓石の高さ約二m、臺石共にて總高さ二・四m、幅〇・四mにして表面に南無阿彌陀佛（業盡有情雖放不生故宿人天同證佛果）、側面に元祿五年壬申五月、願主設樂孫兵衞、池永藤右衞門、早川源右衞門と三行に銘す、又た向岸寺に其の鯨位牌と文化二年より天保十五年までの鯨過去帳一冊ありて表紙に弘化二年巳年より鯨鯢群類過去帳　觀音堂と記し全葉三十四にして合計八十四行の法名を錄す

概況

青海島の東半部は通村に屬し、西半部は仙崎町の一部を爲し、全島、中生代の

砂岩、輝緑凝灰岩、石英斑岩、花崗岩、玢岩、玄武岩、等中生代及其以後の岩石より構成せらるゝ

島の東、西、北の三面は日本海の怒濤に浸蝕せられ到所に石柱、洞門、斷崖絕壁及海礁を造れるも是等異種の岩石は各々色合を異にすると共に夫々特色ある海蝕を受け茲に甚だ變化に富める豪宕なる奇觀を造り出したのである、南面は仙崎灣及深川灣に面するが故に波穏かにして宛ら湖水の如き狀態を呈する、海岸は出入著しく風光明媚である、又島の西南隅には礫堤を以て遮斷したる青海湖がある、潮岸の松林は天の橋立に酷似する、島内暖地性植物鬱蒼として原始林の如き狀態を保ち、岩角には奇松やダルマギク點綴する、森林中には猿其他の動物棲息し、近海には鯨族及廻游性魚屬を見る、北岸及西岸は人煙に遠ざかるも南岸には通浦、大日比、大泊、青海等の諸部落がある

最高點は仙崎町に屬する島の西北隅なる海拔三二〇mの高山の頂上にして、東方にては通村高崖の頂上二四九mの地點である。〔終〕

昭和七年三月三十一日印刷
昭和七年四月三十日發行　（非賣品）

山口縣

山口市縣廳通
印刷所　山口響海館

山口縣山口市後河原一五
印刷人　小澤兵造

372
574

終